

環境経済・政策学会(SEEPS)2021 年大会・企画セッション

2021 年 9 月 26 日(日)14:00-16:00、オンライン開催

1. 企画テーマ:

「ポスト・トランス・サイエンスの時代における専門知と地域知との協働のあり方を考える」

2. 企画セッションの背景と目的

1972 年、マンハッタン計画にも参加したアメリカの核物理学者 Alvin Weinberg は、「科学とトランス・サイエンス」と題する論文を発表し、低レベル放射線の健康影響や低頻度大規模災害などを事例に、こうした社会課題は“*questions which can be asked of science and yet which cannot be answered by science*” *であると論じ、「トランス・サイエンスの時代」の到来を告げた。

トランス・サイエンスの時代において、リスク管理政策を決めるのは、「科学の共和国」(Polanyi 1962)に住む科学者ではなく、科学者・専門家と市民との協働作業であると議論されてきた。逆に、トランス・サイエンスの時代は、科学者・専門家や政府だけで決定された政策の社会的受容性は極めて低い。もちろん、科学者・専門家はリスクに関する正確な情報を市民へ提供することが重要かつ必要であり、「社会のための科学」としての役割が期待されている。しかし、トランス・サイエンスの時代は、科学者・専門家と市民が対話などの熟議や市民参加などにより「社会的に堅実な知識」を形成し、民主的ルールにより、リスク管理政策を決定し、実施することが求められる。

トランス・サイエンスの時代の到来に呼応し、参加民主主義や熟議民主主義の重要性が強調され、コンセンサス会議や討論型世論調査などの議会制民主主義を補完する取り組みが、多くの民主主義社会で試みられてきた。しかし、21 世紀に入り 20 年以上が経過した現時点の世界を観察すると、熟議民主主義の典型ともいえるフランスの国民討論委員会 (CNDP)、デンマークを発祥とするコンセンサス会議、アメリカ発祥の討論型世論調査 (DP) などの多くの「知識の民主化アプローチ」は、社会的合意形成に対して有効に機能しているとは言えない。

20 世紀後半のトランス・サイエンスの時代の「知識の民主化論」に対し、イギリスの科学社会学者 Harry Collins (2002) は、科学研究の「第三の波 (the third wave)」の必要性を主張し、科学技術リスクをめぐる社会的合意形成に、多くの市民が参加するほど善であるという考え方の結果、市民の専門知の欠如ゆえに社会的失敗が発生するとしたら、いったい誰が責任をとるのかという批判を行なった。

我々の住む 21 世紀の高度科学技術社会におけるリスクへの対処は、市民参加や熟議が進めば進むほど良い解決策が得られるというトランス・サイエンスの時代から、どのような専門家やどのような市民が参加し、どのような「場」を形成することによって、社会的受容性 (社会的納得) を醸造すべきなのか、という「ポスト・トランス・サイエンスの時代」へと転換すべき時を迎えているように考えられる。

本企画セッションでは、日本社会におけるトランス・サイエンス的課題 (trans-scientific questions) の事例分析を通じて、科学技術分野と社会科学分野の多様な専門家の協働のあり方や、多様な専門家 (専門知) と多様な市民 (地域知) との協働のあり方や、住民対話などの「場」の形成について考えてみたい。

* Weinberg, A. M. (1972) , Science and Trans-Science, *Minerva*, 10 (2) , pp. 209-222.

3. 企画セッションのタイムテーブルなど

2021 年 9 月 26 日（日）

14:00-14:05：趣旨説明

座 長：松本礼史（日本大学生物資源科学部教授）

14:05-14:20

報告 1：松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「ポスト・トランス・サイエンス的課題としての 1F 処理水の海洋放出問題」

14:20-14:35

報告 2：笹尾英嗣（日本原子力研究開発機構・東濃地科学センター地層科学研究部長）

「高レベル放射性廃棄物地層処分における対話のあり方を考える」

14:35-14:50

報告 3：藤原広行（国立研究開発法人・防災科学技術研究所・総括主任研究員）

「地震動予測の課題：不確かさといかに向き合うか」

14:50-15:05

報告 4：寿楽浩太（東京電機大学工学部教授）

「『予測』への社会的期待とその逆機能：COVID-19 と原子力の事例から」

15:05-15:30（各 5 分）

討論者：

寺本 剛（中央大学理工学部准教授）（主に松岡報告、笹尾報告、寿楽報告）

阪本真由美（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）（主に藤原報告）

秋光信佳（東京大学アイソトープ総合センター教授）（主に寿楽報告）

黒川哲志（早稲田大学社会科学総合学術院教授）（主に松岡報告、笹尾報告、寿楽報告）

竹内真司（日本大学文理学部教授）（主に松岡報告、笹尾報告、寿楽報告）

15:30-16:00：総合討論

以上